

## 『ロング・グッバイのあとで』

元ザ・タイガースメンバー 瞳みのるさん (64)



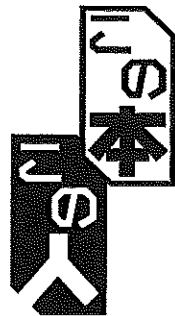
## 「一身にして二生」の軌跡

一世を風靡したグループサウンズ「ザ・タイガース」のドラマーだった著者の書き下ろし自叙伝。発売直後に増刷が決まるなど、話題の一冊である。

「この本は、いわゆる名刺代わりです。僕はこういう者です、という。ただ、名刺としては、重くならずすぎましたけど」と言って笑った。

ザ・タイガースの解散とともに音楽の世界からきっぱりと退き、ふるさとの京都へ戻る。定時制高校に入り、慶応大に合格。中国文学を学び、大学院修了後は、慶応高校の教諭として約三十年にわたっ

て中国語を教えた。数多くの教え子たちに恵まれ、かけがえのない時を過ごした。中国語の参考書も出した。昨年に退職。現在は北京に移り住み、これからの自分ができることは何かを見つめ直す日々。慶応の創始者である福沢諭吉の「一身にして二生を経る」という言葉がまさに当てはまる人生の軌跡が、無駄のないすっきりした文章でつづ



られる。本書の題名は、二〇〇八年にメンバーが再会を果たしたきっかけとなった、沢田研二さんがテレビで歌った曲にちなんでいる。

「書いたことによって、自分自身のこれまでを振り返り、これからの生き方をあらためて考えることができた。のんびり構えていたら、もっと気楽に生きられたのになあとも思いますけどね」

現在は、音楽が社会に与えた影響などを自分なりに捉え直すための著書を執筆中だという。「僕自身の位置はどういう社会的意味があるのかを検証したいという思いもあります。明治時代からさかのぼって、グループサウンズの登場とその音楽的影響も視野に入れながら、現在の音楽までを広く考えてみたい。ひとつの文化史ですよ。大きなテーマですが、硬くなりすぎないようになっています」。目を輝かせながらこう語る様子に、音楽への真摯な態度が伝わってきた。

集英社・二二六〇円。

(久間木聡)